



秋田県立能代支援学校教育プラン

令和5年度～9年度（令和7年度改訂）

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状と課題】

- 1 児童生徒数は、近年90人台で推移しているが、能代山本地区高等学校の統合により、高等部入学者数に影響が出始めている。なお、例年、小中学校からの転入学が複数ある。在籍児童生徒のうち、発達障害（35%）や肢体不自由（8%）のほか、心理的安定を課題とする児童生徒が複数おり、個々に応じた指導や支援の充実が必須である。自立活動を中核とした指導の一層の充実と多様な学びの形態の工夫が求められる。
- 2 コロナ禍を経て、地域資源を活用した特色ある教育活動が精選された。地域の課題を見だし、その課題解決を図るなど、「地域貢献」をキーワードにして地域へ参画する学習の充実が求められている。また、学校林「思い出の森」を活用し、環境教育を含んだ取組として教育課程に位置付けた。工夫を加えながら継続し充実を図りたい。
- 3 授業研究を通して、「学びの履歴に基づいた指導と評価の一体化を図る平易な仕組み」を構築し、運用を開始した。これにより、指導の形態に関わらず、学習指導要領に準拠した生きる力を育む授業改善を推進する。今般作成した「標準年間指導計画」に基づき、12年間を見通したカリキュラム・マネジメントを推進し、教育課程の充実を図っていく。
- 4 創立30周年記念事業の一環として、「フダンヅカイ PRODUCT」と銘打って、作業学習製品の開発を行った。取組は途上であり、今後、中・高等部の連携を考慮しながら一層の充実を図っていく。係活動等を通して「役割を果たし手応えを得る経験」や「協働する喜び」等の積み重ねを大切に日々のキャリア教育の充実を図っている。
- 5 ICT機器は日常的に活用され、作業日誌のDX化など、効果的な活用に関する実践の共有が進んだ。一方、家庭での活用については、途上である。なお、児童生徒の意思の表出の代替手段として、ICT機器を活用することと併せて、言葉を育む指導に関連付けることや意思の共有を通じたコミュニケーション能力や社会性を涵養することなど、自立活動の観点及び「育成を目指す資質・能力」を明確にして指導を進めたい。
- 6 小・中学校との居住地校交流は対面式で実施できるようになった。事前学習として実施した障害理解授業が効果的で、当日の交流活動の充実につながっている。今後は、高校を含み通常の学級の保護者を対象とした障害理解授業を展開したい。
- 7 センターの機能については、地域の小・中学校等のニーズに応じた研修や相談対応ができた。今後は、潜在するニーズへの対応として、特に特別支援学級の専門性向上に有益な情報を提供できるよう自校のもつノウハウを提供していきたい。
- 8 教職員の人手不足が顕在化している。業務の効率化とともに、効果的な指導方法の共有など、専門性を担保しつつ指導の充実を図る具体的な方策が求められている。

【学校を取り巻く将来の状況の予測等】

- 実態が多様化する在籍児童生徒の教育的ニーズに応じた指導及び支援のより一層の充実が求められるであろう。関係機関との連携により生活全般や将来を見通した支援を行うなどしながら、自立と社会参加に向けた学習が効果的に行える環境を整えたい。
- 特別支援教育のセンターとして、地域の「多様な学びの場」の実践の向上に寄与する取組や連携の充実が求められるであろう。教育委員会や小・中学校等との良好な関係を基盤に、地域における特別支援教育の課題解決に向けた地域支援の充実を図り、それぞれの「学びの場」の充実に寄与したい。

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- ・子ども一人一人の尊厳性を重んじ、愛情に満ちた教育を推進する学校
- ・心身ともに安全で安心な環境のもと、生き生きとした学校生活をつくとともに、関わる全ての人のWell-beingを推進する学校
- ・地域に開かれた魅力ある教育活動の充実により「生きる力」を育む学校

【目指す児童生徒の姿】

- ・明るく元気な子 ー 体を鍛え、心豊かに笑顔で生活する児童生徒
- ・仲良く助け合う子 ー 思いやりをもって共に遊び、学び、認め合う児童生徒
- ・喜んで働く子 ー 自らの成長と貢献する喜びを感じ、進んで働く児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

- 1 特色ある教育課程の編成と組織的で効果的な実施
 - ・安全・安心な環境と規律に基づく秩序ある学校生活の徹底
 - 【感染症予防の徹底～毎日、避難訓練：年3回、うち1回を総合防災訓練とする】
 - 【学部集会及び学級活動、ホームルーム等での指導～計画的な実施】
 - ・主体的な係活動及び個別の課題解決を図る自主学習の実施
 - 【日常生活の指導における「個別課題学習」の実施～毎日】
 - ・心身の健康の維持と心理的な安定を図る効果的な指導と保護者連携
 - 【自立活動、保健体育、体育的活動を通じた指導・支援～計画的実施】
 - ・校内外の資源を活用した特色ある教育活動の充実
 - 【地域資源を活用した教科指導や学習活動及び地域貢献活動～計画的実施】
 - 【居住地校交流～障害理解授業及びオンライン形式を含めた効果的な実施～小・中学部とも在籍者の50%台実施の維持】
 - 【「思い出の森」を活用した学習～集会、下草刈りなど全校縦割り活動：各2回】
 - ・キャリア発達を促す学級活動、勤労観を育む職業教育の充実
 - 【キャリアノートの活用、作業学習の改善、キャリア発達を踏まえた移行支援～随時】
- 2 個に応じ、生きる力（資質・能力）を育む教育課程及び学習の推進
 - ・「標準年間計画」に基づき、卒業までを見通して計画的に資質・能力を育む教育課程の編成・実施
 - 【各教科、道徳、特別活動、自立活動等に係る指導の充実～随時】
 - ・学びの履歴に基づき「育成を目指す資質・能力」を明確にした計画と評価
 - 【観点別学習評価表を活用した計画と記録（学びの履歴）～前期・後期】
 - 【観点別学習評価表と改定した各教育計画書（個別の指導計画及び年間指導計画、学習指導案等）の継続活用～随時】
 - ・自立活動に係る指導計画及び実践の組織的改善
 - 【教育専門監及び学部主事等を活用した計画の検討・改善～計画的実施】
 - ・児童生徒による日常的な目標設定及び自己評価の機会設定
 - 【学級活動またはホームルームでの指導の充実～毎週】
 - ・児童生徒の関わり合い、学び合い、支え合いを促す集団学習の工夫
 - 【好実践の蓄積と共有による授業改善～全校授業研究会：年3回】
 - ・代替手段及び理解・調査・思考・表現等の手段としてのICT機器活用促進
 - 【好実践の蓄積と共有による授業改善～全校授業研究会：年3回】
 - ・生涯学習を見通した学習活動及び部活動、公民館等のセカンドスクールの活用の促進
 - 【生涯学習につながる学習活動及びPTA活動、部活動の内容の工夫：随時】
 - 【公民館等との連携による生涯学習の機会提供：計画的実施】
- 3 教師の専門性向上に向けた効果的な指導方法の共有と研修の推進
 - ・効果的な指導方法の共有と活用
 - 【効果的な指導方法を集約した「能代スタンダード」の共有と活用】
 - ・ICT機器活用に係る研修の充実
 - 【年3回の研修会、実践例の蓄積～随時 ICT機器を活用して指導可能な教員の割合：令和9年度までに95%を達成】
 - ・授業研究会と日常の指導へのフィードバック
 - 【全校研究会及び年次研修の成果共有、教育専門監等による授業改善相談～随時】
- 4 地域のニーズに応えるセンター的機能の充実
 - ・ニーズに応じた地域支援活動（情報提供、教育相談等）
 - 【地域向け研修会：年2回以上、障害理解授業の積極的な実施】
 - 【特別支援学級への情報提供及び研修支援「能代スタンダード」の実践研修～年2回】